

(様式1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	井手町立井手小学校							校長名	鐘築 栄滋
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	1 6 1 名
学級数	1	1	1	2	2	2	2		
事業担当教員名	金澤 弘樹								
① 中学校区で目指す子ども像		「地域とつながる力」、「変化する社会を生きぬく力」、「人権を大切にする行動力」、「たくましく豊かな人間力」 これらの力を使い、未来のまちづくりを担っていく子ども							
② 目指す子ども像		<学校教育目標>「よく考え、健康で、仲間を大切にする児童」 <研究で目指す児童>「主体的に学び、考え判断し行動できる児童」 【目指す児童までの道筋】 レベル1 目的に応じて文章や図、表などから必要な情報を読み取ることができる。 レベル2 目的に応じて読み取ったことを整理・分析することができる。 レベル3 相手や目的に合わせて伝えたり、まとめたりすることができる。 レベル4 相手や目的に合わせて、読み取り、整理・分析・まとめる・伝えるの過程を計画的に考えて取り組むことができる。							
③ 目指す子ども像に対する現状と課題		本校は、これまでに「主体的に学び、思考したことを表現できる児童の育成」を目指して単元構想と学習過程に焦点を当てて研究を進めてきた。各種学力調査において、京都府や全国平均を上回る時期も見られた。昨年度の「居心地の良いクラスにするためのアンケート」QU では、5月の調査に比べて、12月の調査の方が学級生活満足群の割合が増加していた。しかし、その一方で、学力に課題のある児童が一定数いることは未だ解決できていない課題である。意欲的に学習に臨んでいる児童が多く、安心して学習や生活に臨める学級経営を行っているにもかかわらず、学力が伸び悩んでいるといえる。仲間づくりという側面で見ると、心理的安全性が高まっているといえるため、それらの手法は継続し、なおかつ学びを深めていける学習集団を作っていくことを目指したい。 そこで令和7年度は、これまで継続して取り組んできた授業づくりの手法と、本校が大切にしてきた人権教育を基盤とした教育活動を学校全体で共有し、子どもたちが自ら課題を見つけたり、調べ方やまとめ方を選択したりするなど主体的に取り組む力を伸ばしていきたい。							
④ 目指す子ども像に達するための仮説		学び合いのある集団づくりや子どもが主体性を発揮させる取組（授業）を行うことによって自ら考え、学び・行動できる児童を育成できるのではないかと。							

令和7年5月1日現在

※1～4は、「研究計画書」として年度当初に記載する。

【1 研究主題】

主体的に生き抜く力を育成する ～子どもの主体性を育む取組を通して～

【2 研究組織体制】

(1) 中学校ブロックの組織体制

ジョイント・アップ推進委員会（各校管理職・教務・研究主任）

学びのパスポートの分析等を生かした授業改善

個別支援部会

個別支援プログラムによる
学習習慣と生活サイクルの確立

学習集団部会

児童生徒の主体的な取組による
非認知能力の育成

保小中連携部会

学びスタート調査を活用した
学びの土台となる力の検証

(2) 校内の組織体制

授業づくり

研究推進部

授業づくり部

主体性を育む授業づくり
・ 3 step
・ スタディガイド
・ 非認知アイコンの共有
・ 授業観察週間
・ 研修会の運営

環境整備部

学習環境の整備充実
・ 掲示物の作成
・ 朝学習（スピーチ）
・ 井手小学校10の約束

学力充実部

学力分析
個別最適な学びの充実
・ 家庭学習強化週間
・ 学テ分析
・ 非認知アンケート

仲間づくり

特別支援教育部

人権教育部

生徒指導部

特別活動部

ルール・リレーションの確立・主体性・自己肯定感・自己有用感・協働性・利他性を育む取組を充実

【3 具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	方針や取組の共有 校内研修会①「学級経営・仲間づくり」 校内研修会②「研究で目指す児童の共有」「いじめについて」 校内研修会③「モデル授業」「授業づくりのポイント」「JU研究会の指導案検討」
5 月	JU授業研究会（井手小学校）
6 月	授業参観週間（教員間で授業参観を行う） 校内研修会④「人権レポートの交流」
7 月	校内研修会⑤「2学期研究授業の指導案検討」「特支」 校内研修会⑥「全国学力・学習状況調査の分析」「生徒指導」「人権」 校内研修会⑦「人権学習指導案検討」「人権レポートの交流」

8月	JU夏季研修会、学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会 フィールドワーク（ツラッティ千本） 校内研修会⑧「京都府学力学習状況調査分析」 校内研修会⑨「インクルーシブ教育」
9月	研究授業・校内研修会⑩「研究授業の振り返り」「人権」
11月	JU授業研究会（多賀小学校） 授業参観週間（教員間で授業参観を行う） 人権学習研究授業・校内研修会⑪「研究授業の振り返り」「人権レポートの交流」
12月	校内研修会⑫「非認知アンケートの分析」
1月	JU授業研究会（泉ヶ丘中学校） 校内研修会⑬「研究授業の指導案検討」「人権」 研究授業・校内研修会⑭「研究授業の振り返り」
3月	校内研修⑮「人権レポートの交流」「非認知・標準学力調査の分析」

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
全	31	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	自己調整	
全	45	自分の考えたことよりも、相手の方がよい考えを持っていると感じたときは、相手の考えを取り入れるほうだ。	思考の柔軟性	
全	48	難しいことでもあきらめなければ乗り越えることができる。	目標に向けて取り組む姿勢	

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法	
A	…得意なことや挑戦した過程を認め、褒めていく。相互評価の場面を設定し、友だちと関わりながら振り返れるようにする。
B	…頑張っていることを認めながら意欲を継続させる。また、発音に関しては通級指導を再開することも考えていく。
C	…見通しを示し、計画、実行、振り返りのPDCAサイクルを意識させる。また、相互評価の機会を取り入れるなどして客観的に自分を見つめる機会を与える。
D	…本児の頑張りを認め、適切なタイミングで褒めることを継続する。また、やる気が高いときに学習のよりよい方法を教える。
E	…本児の頑張りを認める。また、意図的に友だちと関わる機会を増やしたり、役割を与えたりして他者の考えに触れた上で自分の考えをよりよくしていけるようにする。
F	…自分の考えを持てるようにする。考えを持てた時には、内容よりも児童自身の考えを認め、成功体験を積ませる。また、話しやすい班やペアになるよう工夫する。
G	…本児の良さを見つけ、周りに広げていく。また、学習面・生活面共にできたことやうまくいかなかったことをしっかりと振り返らせ、できたことを認めていく。
H	…なりたいと今自分が置かれている状況を振り返らせる機会を設け、本児が続けられる方法を相談し、継続してできるよう支援していく。
I	…普段の様子をしっかりと見とる。変化があれば個別で話を聞く。また、何事にもやる気はあるため、計画性を持って取り組めるよう、ゴールややり方を示し、自己調整できるようにする。

集団としての具体的な指導・支援方法

- X (集団) …ゴールの姿を示し、見通しを持たせるが、どのようにゴールに迫るのか子どもたち自身が考えたりまとめたりできるようにする。また、目的や自分に合った方法を判断し、選択できるような授業づくりを行う。
- Y (集団) …学力低位層の児童の支援を充実させる。学び方教えたり、安心して聞ける環境を整えたりする。また、集団としても学び方や学ぶために必要なスキル、知識（認知能力の面）を鍛え、学びのスタートラインをそろえる。
- Z (集団) …評価規準の共有をする。ゴールを明確にしたうえで、自己調整の力を高める。また、学力低位層の児童にはスモールステップで進められるように授業を組み立てる。

【8 仮説の修正】

【9 具体的な取組内容の修正】

※10、11 は、「実績報告書」として年度末に記載する。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

学校全体

- 4月の校内研修で「“学び合いのある集団”とはどのような集団なのか」「“主体性を発揮できる取組（授業）”とはどんなものか」について確認・共有をし、教員間のスタートラインを揃えることができた。また、昨年度から引き続き、学校全体で主体性を育む上で個別最適な学びを充実させることが大切であると共通確認することができ、授業で大切にしたいことについても共有できた。
- 12月に学校独自のアンケートを実施。「居心地の良いクラスにするための質問」5項目、「非認知能力に関する質問」10項目より構成される。
- 居心地の良いクラスにするための質問項目では、「勉強ができるようになりたいと思う。」「クラスの人は声をかけたり親切にしたりしてくれる。」「クラスのみんなは協力し合っていると思う。」の項目で9割以上の児童が肯定的な回答をしていた。
- 「クラスの中で気持ちをわかってくれる人がいない。」「嫌なことを言われたり、からかわれたりしてつらい。」と答えた児童が約3割いた。
- 非認知能力に関する質問項目では、学校全体で「目標に向けて取り組む姿勢」のポイントが高く、効果的な動機付けやゴールの設定ができていると考えられる。
- 4～6年生では、5月の京都府学力・学習状況調査に比べ、12月の調査の方が「自分の思いやしたいことだけでなく、相手の思いやしたいことも考えながら行動するほうだ。」の項目で伸びが見られた。友だちの意見を大切にしたり、周りの意見に目を向けたりしようとしていることがうかがえる。しかし、相手の意見を取り入れる、聞いたことをもとに自分の考えをまとめるといったところにはまだ繋がっていない様子もアンケートから見えた。友だちの意見や考えを聞くことはできるようになってきているので、聞いた考えをもとにまとめる、よりよくする

といった“考えの再構築”ができることが次の課題だと考えられる。

各学年の様子

【〇年】

自己調整の力を高められるような授業づくりを実現するために、目的を明確にすることや、自分の意見を持たせるなど、主体的な学びの基礎の部分に重点において取り組んだ。また、非認知アンケートの結果や日々の様子から、他者との関わりの中で学習に向かう意欲や、理解が高まる児童が多いと考えられたため、意図的に他者と関わる機会を取り入れた。スピーチタイムでは、自分のことを語らせるテーマを設定することで、自分の意見を持つことができたり、友だちの良さを再発見したりすることができた。こうした取組を通して、他者の考えを認めるだけでなく、自分の考えと比較し、より良くしていこうとする姿が見られるようになった。

【〇年】

児童が主体性を発揮して学ぶことができるように「安心できる学級づくり」と「学びの土台を固める」ことを目指して授業づくりに力をいれた。学級づくりでは1年を通して「聞く力」と「言葉の使い方」を徹底した。友だちの話を聞くことは相手を大切にするだけでなく、集団として学びを深めていくことにもつながった。実際に友だちの意見に対して「聞き返す」「途中までも伝えようとする」といった学び合う姿が見られるようになった。12月の非認知アンケートでも「思考の柔軟性」に関する質問項目では肯定的に答える児童が増えた。また、学習のスキルや様々な学習方法（調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方、伝え方等）を教えたり、目的をはっきり示したりすることで自分で工夫してノートにまとめたり、友だちに聞いたりしながら主体的に取り組む姿が見られた。

【〇年】

評価規準を示したり探究的な学びを取り入れたりすることに力を入れた。単元の初めに、単元を貫く問いを与えたことは児童が見通しを持ったり振り返ったりすることに効果的だった。また、目的に合わせて、学習道具や学習方法（調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方、伝え方等）を自分で選択させたことは児童の主体的に学ぼうとする姿勢に大きく変えるきっかけとなった。一人学びの後にグループや学級全体で共有したことでさらに学びを深めることができた。学力低位層の児童も友だちと教え合う活動を通して授業に取り組む姿勢がよくなった。12月の非認知アンケートでも「目標に向けて取り組む姿勢」に関する項目で約9割の児童が肯定的な回答をしていた。

【11 3年次の研究構想】

【令和8年度研究主題】

「主体的に生き抜く力を育成する ～子どもの主体性を育む取組を通して～」

【目指す子ども像】

＜学校教育目標＞「よく考え、健康で、仲間を大切にする児童」

＜研究で目指す児童＞「主体的に学び、考え判断し行動できる児童」

【目指す児童までの道筋】

レベル1 目的に応じて文書や図、表などから必要な情報を読み取ることができる。

レベル2 目的に応じて読み取ったことを整理・分析することができる。

レベル3 相手や目的に合わせて伝えたり、まとめたりすることができる。

レベル4 相手や目的に合わせて、読み取り、整理・分析、まとめる・伝えるの過程を計画的に考えて取り組むことができる。

【仮説】

学び合いのある集団づくりや子どもの主体性が発揮できる取組（授業）を行うことによって自ら学び考え・行動できる児童を育成できるのではないかと。

【改善点】

① 探究的な学習の充実

5年生の総合的な学習の時間では「食品ロス」をテーマに1年間探究的な学習に取り組んでいく。その際、大学や高校と連携することで、より質を高めていく。また、6年生は、「夢実現プロジェクト」といった学習で、地域のゲストティーチャーを活用し、職業調べを行う。そしてそれをきっかけに自分の夢を叶えるためにはどうすればいいかを探究的に考えていく等、総合的な学習の時間を中心に充実させることで、学習の個性化を図りたい。

② 「情報を読み取るスキル」「情報を整理・分析するスキル」「伝えたり・まとめたりするスキル」といった積み上げたいスキルを学年ごとに明らかにする。
各学年で重点的に指導しなければならないことは何か明確にすることで教員が意識できるようにする。

③ PDCAサイクルの確立

全ての教員が各種客観テストやアンケートを活用し、実践に生かしていけるシステムを学校として積み上げ、蓄積する。そのために「いつ」「だれが」「どうするか」を明確にする。

④ 基礎基本の徹底と人権教育の充実

基礎基本の徹底と本校で長年大切にしてきた人権教育の両方を大切にすることで学習の下支えになるものを強化し、主体性を育む取組がより効果的に働くようにする。そのためにどの児童もわかる、できる授業づくりをするために学校として授業をつくるに当たって大切にしたいことを共有化し、子どもたちの力を確実に積み上げたい。また、年間を通じて行う人権ミニ研修や人権レポートを活用し、1人1人を大切に学ぶ学級づくりに力を入れ、児童の心理的安全性を高める。

⑤ 家庭学習の習慣化

家庭学習強化週間を生かし、家庭学習の習慣化を家庭と協働しながら目指す。学校では、自主学習の方法やノートの作り方、学習目標や学習計画の立て方を学年に応じて系統的に指導する。振り返りも大切にすることで次の自主学習へとつなげられるようなPDCAサイクル作っていく。また、家庭へも振り返りのコメントを依頼したり、ノートの紹介をしたりすることで家庭と学校が協働して学習習慣を育てていけるようにする。

※A4判で8枚程度にまとめてください。